

# 古き農業を学ぶ

## —農家の苦悩とうれしさ—

話し手：西原 勇

聞き手：大納 英樹（埼玉県立松山高等学校 1年）

### 収穫する時がうれしいんだ

農業は小学校上がったあたりからさせられたよ。うちは百姓ですからね、麦とかを作るのを手伝ったんだよ。肥料は合成肥料っていう窒素とリン酸とカリ(カリウム)を買ってきて家で混ぜたものを使ったり、干した魚を挽いた魚粉とか牛ふん、大豆なんかの自然肥料とを両方使って育てたね。で、その肥料をまく畑は馬と鋤でもって耕すんだ。馬は力のある道産子ってのを飼ってて、当時は確かどの家庭も馬や牛を飼ってたと思うな。で、その馬も一定の年数で取り替えるんだけどまだ働けるうちに替えるんだよ。何でかっていうと馬を買ってくれる闇業者ってのがいて、若くて働けるうちだと高い値で買い取ってくれるんだ。でその馬はまた別のところで売って金にするんだと悪いこと考えるやつもいるもんだ。で、鋤って道具も使うんだけど、まんのうって道具で耕すこともあるんだけどそれより楽なんですよ。でも農業は大変なことには変わりないです。天候に左右されやすいから雨なんて降ると畑には入れないから仕事にならないし、二毛作っていった米を収穫した後すぐに麦を植えて育てるから年中無休なんだよ。でもその大変なのを通り越せば収穫ができますから、私は収穫する時が農業やって一番うれしいんですよ。でも今はもう農業やってなくてね。そうだな昭和40年ごろに辞めちゃったよ。今は趣味の範囲でやって白菜植えたり、苗作ったり、まあ所得がないから農業って言えないけどね。

### 蚕も収入源だったんだよ

蚕も農業同様に仕事で収入源でもあってね。まあ最初は小学生くらいのころから親の手伝いでやり始めたんだけどね。年三回蚕を育てるんだよ。蚕は卵からかえって1カ月で育つ卵は業者から買ってきて孵化させるんだ。蚕は桑の葉を食べさせて育てるんだけど、その桑の葉っぱをとるために桑の木も植えるんだよ。桑の木は1年ごとに植え替えるんだけどね。で、ある程度育ったらまぶして言う四角い枠がたくさんある道具に繭を作らせるんだよ。だいたい4日ぐらいで繭がかんせいするんだ。で、できた繭は枠から取って糸を紡ぐんだけどその時にじゃぐり（西原さんはじゃぐりとおっしゃっていたが地方に

より異なり座繰：ざぐりとも言う）っていう道具を使うんだよ。それでぐるぐる、ぐるぐる巻くんだよ。繭1つじゃ糸が弱いから4つぐらいまとめて紡ぐんだけど、繭を紡ぐのは女性の仕事だったから、あんまりやったことないな。でも触ったことぐらいはあるんだけど、絹だからって言って最初っから手触りいいわけじゃないんだ。最初はごわごわしてるんだよ。でも糸を自分ちで紡いでたのも最初の頃でね。そのあとは繭のまんま業者に売っちゃうんだ。



写真の座繰は別の地域のものです

### PROFILE

西原勇 にしはら いきむ  
大正15年1月10日 88歳

幼少の頃より野山で遊び育つ。昔は農業をやっていたが現在はやっていない。趣味で農業をやっている。幼少のころは松山まで歩いて遊びに行ったりカタクリの実を焼いて食べるいたずらをするなどやんちゃな面もあった。戦時中は徴兵されるも終戦と時期がかぶり訓練に行つて2ヶ月で無事帰宅する珍しいエピソードも持っている。東京のほうでガス関連の仕事や准公務員の職歴を持っている。

### ●取材を終えての感想●

今回のこの企画に参加しているいろんなことを学ばせていただけたと思います。自分の家庭でも農業をやっているのですが地域が少し変わると同じ作物を作るにも全くちがうやり方をとっていたり、今まで本や学校で浅はかな知識しか教わったことのないような蚕の作り方や育て方育てる時期などこと細かく教わったり、とても勉強になりました。また普段の生活の中ではなかなか話さない長い人生の経験を持った方とじっくりとお話しできたことは自分にとってとても良い経験になりました。また今回教えていただいたいろいろな知識を様々なことに生かしていこうかと思えます今回はこのような素晴らしい企画に参加できてとてもうれしいと思います。またこのような企画があったら積極的に参加していきたいと思えます。